

原子力小委員会第 38 回会合への意見

東京慈恵会医科大学 越智 小枝

貴重な資料をありがとうございます。安全性向上と人材育成への意識、横連携の重要性の認識が高まっていること、心強く思います。しかし一方で、「自主的な安全性向上への取り組み」と「人材育成」との整合性があまり取れていない部分に疑問を感じます。

1. 技能に偏らない人材育成と評価軸

安全性向上の際には意見交換・コミュニケーションなどソフト面での安全性についての記載が多くみられることから、技能だけで安全性が確保できないことは明らかなです。しかし人材育成段階からこのソフト面を支えられる能力をについてはあまり議論が進んでいないような気がします。

現在原子力業界における課題の一つは、現場における社会や一般人との対話能力の不十分ではないかと思います。すなわち今後の人材育成には最低限の国語力とコミュニケーション・プレゼンテーション能力は必須と考えます。人材育成段階で評価軸が技能にばかり偏れば、いくら発信強化・交流促進を強調しても実行力を伴わず、結局は安全文化が醸成できない旧来の状況が続いてしまうのではないのでしょうか。

2. 必要人材の要素決定プロセスの透明性確保

原子力業界全体で横連携を行って人材育成をしていくという姿勢は非常に重要と思いますが、その人材に必要とされる要素は誰が何を根拠に決めるのでしょうか。日本の文化や歴史に基づいた安全設計を行う以上、この点は、決して英国などからそのまま輸入してはならないと思います。

3. 産官から独立したアカデミア母体

また、産官学連携の重要性が示されている割にアカデミアの中心であるべき学会や、教育の中心となる大学の役割が明確でなく、いまだ教育が縦割り社会の強い「産官」に偏っているように見受けられます。アカデミア自体が独立して意見を述べられる文化が醸成されなければ、多様性や横連携は不可能です。

多くの人の生活を支え得る産業であるからこそ、人間の営みを理解できる人材育成を視野に入れていただくことを希望いたします。

以上